

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

(平成 28 年 3 月 7 日 午前 10 時 55 分)

●議長 (小林幸雄) 休憩前に続き会議を開きます。

通告の 2、北村照明議員。

- 1 酪農家への対応について
- 2 下水道事業について

議席番号 11 番・北村照明議員。

◆11 番 (北村照明) 議席番号 11 番・北村照明です。前もって通告しておきました二点についてお伺します。

まず、初めに酪農家への対応ということでございます。その中で、まず初めに家畜診療所の件についてお伺いいたします。

私は、前の委員会か何かの時に資料としていただいた、家畜の頭数等を書いたものを調べてみまして、つい最近、塚田所長から今年の飼育頭数はどうかとお聞きしましたところ、一番飼育頭数が多いのは昭和 60 年でございました。その時、32・33 年前のことなのですが、その時の酪農家が 52 戸で、飼育頭数が 1115 頭、この年が一番多かったということになっております。その前の辺りは頭数が少ないのですが、酪農家の数が多かったわけでございます。その後の戸数・頭数等もだんだん減ってきておまして、先ほどの塚田所長からお話をお聞きしたところ、現在、酪農家が 7 戸、飼育頭数が 467 頭で、これは生後 4 か月以上の牛ということで聞いておりました。頭数で計算いたしますと、最盛期の 42 パーセントまで飼育頭数が落ちているということでございます。

我々人間も信越病院があるから大変安心しておるのですが、酪農家の皆さんも家畜診療所があれば、町内にあれば、牛の具合が悪くなれば、すぐ先生に来て診ていただいて安心するところでございますが、今後、後継者がいない酪農家等々が見受けられ、頭数が減少することが予想されます。

町として、家畜診療所のあり方をどのように考えておるのか、町長のお考えをお聞きします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 北村議員さんの家畜診療所についての御質問でございます。今、御質問でお話ございましたように、近年、大変酪農家戸数の減少、そしてまた飼育頭数の減少というようなことで、大変全体が少なくなっている、そういうような中で、基本的には平成 15 年であったと思うのですが、当時長野市を中心とした圏域の各市町村、信濃町だけがそこに加わらなかったわけですが、長野の のうさいの、基幹診療所と言いますか、ができたわけでありまして。平成 15 年頃、それができたのですが、

当時、信濃町も大変まだ飼育頭数も多いし、酪農家の皆さんのご希望等もあって、信濃町の家畜診療所ということで、現在まで維持してきているわけでございます。

その中で、御質問のように頭数等も減少になってきているということで、酪農家の皆さん方にも御相談を申し上げさせていただいて、やむを得ないであろうというようなことで合意を頂き、現在、北信農業共済組合が今、更に広がって、北信農業共済組合が家畜診療業務をやっておるわけでございますが、29年の4月を目途に、そちらに信濃町も加わらせていただきたいということで、今、事務的な手続きを進めさせていただいているところでございます。これは、なかなか大動物における獣医さんの確保という面でも、町単独でも難しい、そしてまた予定されている北信のうさいの家畜診療業務についてもなかなか獣医さんの確保が難しい等々も含めまして、一緒に信濃町も加わらせていただいてやるのが一番良いのではないかというようなことで、それぞれの皆さんにも御理解いただいて、今、そんな方向で進めさせていただいているということでございます。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) 今の町長の答弁では、平成 29 年を目途にという、酪農家の皆さんも、もう、そういうようなことで納得しているということでございますが、担当課長にお聞きしたいのですが、今度そうすると、獣医さんが遠くから来るようになると、往診料等々もかなり上がって、酪農家の方の負担が増すのではないかと思います、その辺はどうなのでしょう。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 町長が申したとおり、今協議中ではございまして、もちろん酪農家の負担にならないような方向で、畜産は信濃町にとって非常に大事な分野でございます。その辺は十分注意してやっていきたいと思っております。

●議長 (小林幸雄) 北村照明議員。

◆11 番 (北村照明) それと、後でまた質問に入るのですが、酪農家の皆さんが堆肥の関係で、堆肥センターを利用して堆肥を作って、そのおかげで町内の有機栽培米ですとか野菜とかの堆肥の元を作っていただいているわけではございまして、その辺も、酪農家の育成なり、先ほどの負担にならないようにといったような答弁がありましたので、そういうことも考えてもらえれば、大変これはありがたい先ほどの課長の答弁でございますので、是非とも酪農の家をこれ以上減らさないように、是非とも頑張ってくださいと思います。

それから、今、診療所の入口の上に看板の板が貼ってあると思うのですが、もう擦れて看板が全然見えないもので、犬猫等々を連れて来て診てもらうのにも、どこに行っているものか、来る皆さんも分からないと思いますので、どこか達筆の方にしっか

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

り書いてもらって分かりやすくしていただければ、ありがたいと思います。

それから、堆肥センターの運営についてでございますが、今、町内 7 戸の酪農家があるわけでございますが、堆肥センターを利用している酪農家というのは何件あるのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 今、御利用いただいておりますのは 5 件でございます。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) それで、年間の生産量はどのくらいになりますか。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 26 年の末でございますけれども、生産量は 5105 トンでございます。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) その全生産量の、町内外への使用割合等々分かりましたらお願いします。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) このデータにつきましては、27 年度の見込みでお願いしたいと思います。それぞれ堆肥の部分で 3 段階に分かれておりまして、ダンプ配達、軽トラックで自分で取りに行く分につきましては、町内者が 8 割、町外者が 2 割。それと袋詰め堆肥でございますが 30 リットル約 15 キロでございます、それが町内 2 割、町外 8 割。それから大きな約 350 キロのフレコン積みで運ぶのですが、それは町内者なしで、町外者 10 割でございます。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) 昨年の秋、ちょっと堆肥が欲しいと言われた方が、堆肥が不足していて間に合いませんと言われたという話を聞くのですが、その辺はどうなのでしょう。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

■産業観光課長（伊藤 均） 昨年は春に雪が多く、それが消雪等に使われまして、それと酪農家の搬入量が少し減少したということで、不足が生じておりました。

●議長（小林幸雄） 北村議員。

◆11 番（北村照明） 堆肥センターの利用が 5 戸、あと 2 戸は自分の家の施設で処理をして堆肥化をしているということでございましたが、その皆さん方も堆肥を販売したりしておられるわけですが、この近年に 2 戸廃業しておりまして、その皆さんも皆、自分で施設を持って堆肥化しておったわけですが、これは全体の量として信濃町として足りる量があると判断するのですか、足りないと判断するのですか。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 今の実態等、27 年度は 73 ヘクタールの圃場に堆肥を施用しております。それから堆肥の生産は、春の需要が多い時期に合わせて計画では生産されております。冬季間の堆肥の発酵が遅いという理由もありまして、需要のピークの時期に間に合わないという事態が生じておりました、今年はや暖冬で温度も大分上がっておりますので、その辺は今のところ順調に生産がされていると聞いておりますので、この春には、十分とは言いませんけれども、堆肥は間に合うと思っております。

●議長（小林幸雄） 北村議員。

◆11 番（北村照明） 先ほども言いましたけれども、有機栽培等々利用しておりますので、いろいろな条件も確かにあると思っておりますが、信濃町の農産物を売り込む上でも大切な堆肥でございますので、なるべく頑張っておるようにならぬように努力をしていただきたいと思います。

その次に、町営牧場についてお聞きをいたします。

先ほども言っているように、乳牛の頭数がだんだん減ってきているということでございますが、今後の牧場の運営についてどのように考えているか、お伺いをいたします。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） この公共牧場、富士里牧場でございますけれども、町内の農家の育成牛を飼育しておりますけれども、非常に、先ほど議員もおっしゃったとおり、農家も頭数も減りまして、その対策といたしまして、今、長野地域連携中枢都市圏の事業連携で、戸隠牧場と山田牧場も同じような悩みを抱えている中で、今後の公共牧場の運営のあり方を検討していく予定であります。

●議長（小林幸雄） 北村議員。

◆11 番 (北村照明) 私も一番最後に、その連携中枢都市圏構想のビジョンの中に、信濃町と高山村と長野市の連携事業があったのでお聞きしようと思ったのが、先にお答えをいただきまして、ありがとうございます。

それと、飯綱牧場と黒姫牧場と、町に二つ牧場がありますね。今、黒姫牧場の方は、どんな状況で管理されたり、いろいろ行っているのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 黒姫牧場につきましては、夏の放牧に使用するというところで職員が草刈等を行ったり維持管理をしているところでございます。昨年、預託頭数の減少により、富士里牧場だけで管理ができたということで、昨年は放牧しませんでした。これから当然草の状態等もございますので、十分酪農家との話をしながら、預託している牛が十分飼育できるように、また検討してまいりたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) かつては酪農家が草の管理をしたり、乾草を作ったりしていたような気がしていたのですが、今は職員が管理しているだけで、草の管理、肥培から始まって、そういうことはしていないのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 以前も牧場職員がいて、私も数年前、もう十年過ぎていますが、産業畜産係で担当させていただいた時には、職員が機械を使いまして牧草等を全部乾燥したりしまして、いろいろ作る段階で機械を借りる等で多少手伝っていただいた部分もありますが、基本は職員が管理運営をしているということです。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) 先ほど課長に答えていただいた連携中枢都市圏ビジョン構想の中で、信濃町と戸隠と高山村の牧場利用ということを考えているという話でございしますが、黒姫牧場をそういうように利用するとなると、牛が逃げないようにバラ線で囲ったり、水飲み場とか、雨が降った時の牛の休憩に入る場所等々も建てなくてはいけないのですが、これはまだ計画ですが、かつて黒姫牧場で牛を放牧した時のバラ線の始末が大変悪くて、初雪が降ってスキー場の圧雪車が通ると、それを巻き込んでみたり等々あったのですが、それと、かつて牧場にしていた時、観光客に臭いがきついか、観光客のそういうことがありましたので、大いに利用することは良いのですが、そういうような後始末なり、観光客も、牛がいれば本当にのどかな風景で良いのですが、その辺のところもしっかり注意して、これから、計画なのですが進めていって

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

ただきたいと思いますが、どうでしょう。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 今のその問題については、議員さんおっしゃるとおりでして、環境が今話題になっておりまして、それが共存していく一つの一番大事なポイントだと思います。それを当然今後十分検討する中で、より良い牧場運営ができればよいかと思っております。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) 二番目の、下水道事業についてお聞きします。

いつも申し上げておるのですが、接続率の向上ということでございますが、柏原処理区の接続率は平成 27 年 3 月末で 50.2 パーセント、28 年 2 月で 52 パーセントと、1 年で 1.8 パーセントしか上がっておりません。維持費等を使用量で賄うには 80 パーセント以上の接続率が必要というのですが、このような進み方では到底 80 パーセントにいくのには大変年月が掛かり過ぎると思いますので、その辺のこれからの進め方、どのように進めていくのか、まずお聞きをいたします。

●議長 (小林幸雄) 松木建設水道課長。

■建設水道課長 (松木哲也) 建設水道課の下水道の関係ですので、お答えをさせていただきます。26 年度につきましては、今、議員がおっしゃいましたとおりの状況でございます。柏原処理区に關しまして平成 19 年に供用開始というような状況でございます。平成 28 年この 2 月末現在でございますが、柏原処理区につきましては 52 パーセントの接続率となっております。参考までに、他の地区なのですが、野尻につきましては、野尻処理区につきましては 78 パーセント、古海、こちらの農集排事業になりますけれども、古海 93、富濃地区が 85、富士里処理区が 83 ということで、今言われましたように柏原がかなり低いということで、度々議会の一般質問、委員会等でもこの話が出ております。それで当然、接続率を上げなければ下水道使用料自体上がってこないわけで、今後の経営にも大きな課題を残す形になろうかと思っております。

接続を促すための施策としまして、21 年度から宅内の下水道工事の資金の融資の斡旋の補給の制度、こちらは工事をした方で、お金を借りた際に利子補給の制度を行っておるわけですが、こちらの制度につきましては、現在のところ利用者はいないという状況でございます。なかなか、金銭的というだけの問題ではなくて、それぞれ個人の、それぞれの理由があろうかと思っておりますが、下水道係といたしましても、こちらの方については皆さんに宣伝・広報等行っていくというのが、今現在の状況でございます。以上でございます。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) 合併浄化槽で補助をもらって、合併浄化槽を入れた皆さんは管渠が来た場合はつなぎ込むというような約束事ができていると思うのですが、なかなかそういう皆さんも順に歳をしてきて、これからもう、つなぎ込んで良いのか悪いのか、多分考えている皆さんも多いと思います。これが1年・2年と先になるに従って高齢化が進んで、なかなか接続率というのは上がらないと思うのです。先ほど課長が言われましたように、平成19年の3月に柏原処理区の処理場が完成して供用が開始になって、早くも9年になります。10年から過ぎてきますと、そろそろ設備の修理箇所が出てくると思います。維持管理費に毎年一般会計からの繰り出しということでは、除外されている地区等々から不平の声が高まる可能性があると思います。

このようなことを考えていただきまして、真剣に取り組んでいただきたいと思いますが、再度、町長に決意の程をお願いいたします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 下水道の接続率というのは大変大事な問題であります。なかなか接続率が上がってこない、これは今議員からもお話がございました、やっぱり時代の流れが少しずつ進んでいきますと、今までの人口構成も変わる、そしてまた世代構成も変わる等々の変化が出てくるわけがございます。そういう中で、私ども町としましては、どうしても理解をいただかないと、そのことが進まないということがございますので、接続については一層また、未加入と言いますか未接続の皆さん方にはそんな理解を求めていく、そのことを一生懸命やらせていただくことで目的の達成ができるのかなというふうに思いますので、そんな思いで進めさせていただきたいというふうに思います。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) 当初の計画では、柏原、古間、原、落合、仁ノ倉をエリアとして、処理人口が5400人として計算して処理場の用地を取得したわけですが、接続率が上がらなければ処理場の増設等々も考えられませんが、用地取得したものの、まだ遊んでいる用地、今使用されていない用地は、今後どのようなふうにご利用していくのでしょうか、お伺いいたします。

●議長 (小林幸雄) 松木建設水道課長。

■建設水道課長 (松木哲也) 柏原処理センター、処理場の用地につきましては、当初の計画に基づきまして、その用地の取得をしたわけですが、当然、センターの処理施設自体は建設されておらずに、空き地となっている部分が今現在あるわけですが、当然これ以上は、もう今の段階では建設等予定は、容量的には不要かと思

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

うわけですけれども、空き地というか処理場の土地については、今の段階では今後どのようにしていくかというのは、結論が出ていない状況でございます。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) 今、施設のない空き地の管理というのは、処理を請け負っている委託業者が草刈等を行っているのですか。担当課がその草刈や維持管理を行っているのですか。その点どうなのでしょう。

●議長 (小林幸雄) 松木建設水道課長。

■建設水道課長 (松木哲也) 処理場の維持管理運営と言うか、今実際稼動している部分については委託業者という形になりますが、当然草刈等は職員でできる範囲であれば行いますし、予算で業者に委託するという事になれば、たまたま近くに業者がいらっしゃるので、契約的にはどうなるか、入札等の中で決めて行うような形になると思います。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) 住民福祉課長にお伺いいたしますが、同僚議員からも質問がありました、信濃町の環境基本計画という中にも、環境係で接続率を上げるという計画があるのですが、担当としてはどのような手段をもって接続率を上げていくのかお伺いをいたします。

●議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■住民福祉課長 (高橋 徹) 建設関係と相談しながら広報等ということになるかと思うのですが、接続をお願いするように努めていきたいと思っております。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) ここに計画を立てたのだから、計画を立ててあるのだから、どういふふうにする、ぐらいの、手段を講じるとかそういうのがなければ、それはただただ計画倒れになってしまって、まずいと思うのですがどうでしょう。

●議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■住民福祉課長 (高橋 徹) 下水道の接続につきましては、環境基本計画の方にもありますので、この計画に沿って進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いをしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) 下水道係と、またしっかり協力して、接続率の向上をお願いしたいと思います。

それから、下水道事業の委託契約についてお聞きをいたします。

町の方針として、町内業者優先ということで、町内の 1 社と現在契約して事業を行っていただいているわけですが、一番新しい施設、柏原処理区でも、もう 9 年経っていると、古海から始まればもう何十年にもなるわけですが、町内の業者も大変力がついてきているのではないかと私には思われます。そこで、全部とは言いませんが、一部を町外の皆さんに入札の競争をさせるというか、そういうようなことで入れてみて、町内業者と町外業者で競ってみるというか、競争させてみるというような考えはありますか。確かに町内で業者がやれば、みな税金等々も町内に入るわけですが、実際にどうなのか、競り合ってみた方が良いような感じもするのですが、いかがでしょう。

●議長 (小林幸雄) 松木建設水道課長。

■建設水道課長 (松木哲也) 下水道の処理施設の維持管理等は、今、町内業者 1 社との随意契約という形で業務を行っております。古海から始まりますと、かなり長い年数が経過しておりますけれども、当時、全国的にも下水道事業の推進が進んできた時に、し尿処理業者の経営環境への影響緩和というような施策の下に、下水道の整備に伴う一般廃棄物処理業者等の合理化に関する特別措置法というものが制定をされたところでございます。その主旨の中で、影響緩和の対策をするということで、処理については町内業者を選定するというので、行っております。町外の業者ということも言われておりますけれども、今現在はそれに基づいてやっているということでございますので、議員おっしゃいましたように町外業者で維持管理ができる業者、またそういうものを研究させていただきまして、検討はさせていただきたいと思っております。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆11 番 (北村照明) 処理場の関係から、いろいろ、マンホールポンプ等の管理、全て 1 社で行っているわけでありまして、大変な稼ぎもあるかと思っております。私、無理矢理に町外業者を入れろというわけではないので、競争させてみてどうだということになれば、町内業者もそれなりに、また安くしたり何かする方法も、いろいろ企業努力もあるのではないかと思いますので、こういう質問をしたわけですが、とりあえずは町内業者でいくということでございますので、またいろいろ業者と話し合い等ありましたら、なるべく安く、町もこういう具合でございますので、是非安く、ということも、しっかりお話をして、委託契約の関係についてもしっかりお願いしていただければ、ありがたいと思っております。

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

以上で、質問を終わります。

- 議長（小林幸雄） 以上で、北村照明議員の一般質問を終わります。
この際申し上げます。昼食のため、午後 1 時まで休憩いたします。

(午前 11 時 32 分)